



## 保健だより

2021.3.1 南青山病後児保育室

3月3日の耳の日にちなみ、今回は耳のお話をします。

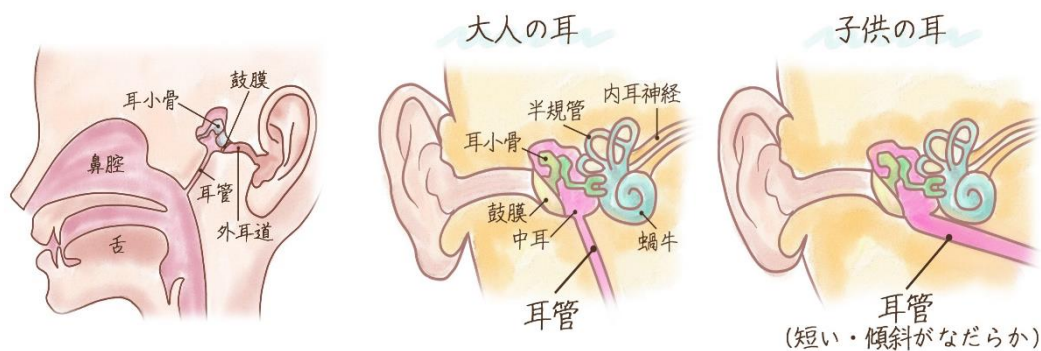
### こどもの中耳炎

中耳炎は風邪などが原因で鼻の奥に細菌がたまり、耳と鼻をつなぐ「耳管」から中耳へ感染が広がることにより起こります。

耳の外側から菌が入っても中耳炎にはならないので、プールやお風呂の水が入ってもなりません。

風邪やアレルギー性鼻炎がきっかけで増えた菌が鼻の奥から耳に逆流して中耳炎を起こします。

こどもが中耳炎になりやすいのは、風邪をひきやすいことと、耳管が成人と比べ太く短く傾きも水平に近いので菌が耳に入りやすいためです。



### 症状

急に片方の耳が痛くなります。耳は敏感なのでとても痛みが強いですが、一時間ほどで落ち着いてくることが多いです。

痛みを訴えられない乳児の場合は、しきりに耳をいじったり、頭を振ったりすることがあります。

発熱することも多いです。

数日前から鼻水が出るような風邪をひいていて、夜間、急に耳が痛くなった場合は中耳炎の可能性が高いです。痛む方の耳を冷やし、カロナールなど痛み止めがあれば服用し、それで様子がみれるようであれば慌てて夜間救急で受診をしなくても翌日必ず診察を受ければ良いでしょう。

ただし、意識がはっきりしなかったり、ぐったりしている、何度も嘔吐するなどの場合は髄膜炎などの可能性もあるため、早めに医療機関に相談しましょう。